

「イルカの体が白くなるのは…」

先月のイルカ通信 (No.64) では、嫁島で確認された体色の白っぽい子イルカ (ミナミハンドウイルカ) の話をお伝えしました。その中で、この子イルカはアルビノではなく、白化個体かもしれないと説明しました。今回はこの違いについて少しお話しします。

イルカに限らず、動物の体が白くなる現象には「アルビノ」と「白化」があります。「アルビノ」とは、遺伝子の異常により、メラニンを作れない個体を指し、「白化個体」とはメラニン色素の産生能力は正常ですが、体色を白くする遺伝情報を持っているため、色素が減少して白くなるものを指します。



「アルビノ」は、メラニン色素を全く持っていないことで、皮膚や毛が白く、目は血管が透けて赤く見えます。ネズミやウサギなどの動物で多く確認されています。さらには、有害な紫外線から体を守ることが出来ないため、皮膚ガンになりやすいとも言われているようです。

一方、「白化個体」は瞳孔が黒く、体色も一部に黒い部分があるものもありますが、真っ白い個体も存在するようです。論文を調べると、これまで野生下で確認された体色の白い鯨類は約 20 種と報告されています (Fertl et al. 1999)。洋上では目の色で判断することが難しいため、アルビノか白変個体かの区分についてはできないようです。またミナミハンドウイルカのアルビノや白変個体に関する資料も探してみましたが見つからず、御蔵島の関係者にも確認しましたが、このような個体は初めてと仰っていました。もしかしたら、世界初の発見かもしれません。引き続き、この個体についての情報をお待ちしていますので、発見した方は是非 OWA までご連絡を！！

<参考文献> Fertl D., Pusser L. T. and Long J. J. (1999) First record of an albino bottlenose dolphin (*Tursiops truncatus*) in the Gulf of Mexico, with a review of anomalously white cetaceans. Marine Mammal Science 15, 227-234.

<参考 Web サイト> 太地町立くじらの博物館 (http://www.kujirakan.jp/sp_w_w.html)
飼育展示中のアルビノのハンドウイルカと白いハナゴンドウを紹介

「先月のイルカ調査で」

個体識別番号 #273 (モグオ) には、口の左側の一部にミミエボシが付着しています (イルカ通信 No.62 参照)。先月の 17 日、イルカ調査に行った調査員から、「ミミエボシの写真が撮れました」との報告。どれどれと思って写真を見てみると、前回確認したときよりも、少し減っている様子。また真正面からの写真もあり、拡大してみると歯ぐきの辺りに付着しているようです。皆さんも是非探してみてくださいね。



2014 年度は、全部で 26 回のイルカ調査を実施しました。調査で撮影した画像や動画から、識別出来た個体は 57 頭で、そのうち新規識別個体は 15 頭、のべ識別個体数は 244 頭になりました。まだ何の特徴も持たない若い個体が多く、母島や聳島列島との行き来もあるので、識別個体を増やしつつ、その生態を徐々に明らかにしていきたいと考えています。

右にある地図は 2014 年度のイルカ調査で、ミナミハンドウイルカを発見した位置を赤点で示しています。皆さんの見つけたイルカはどこにいましたか？ 南島周辺に赤い点が集中しているように見えますが、本当にこの場所に多いのか、それともこの周辺に行く機会が多いからなのか、今後調べていく必要があります。

